

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和2年度 兵庫県農業気象技術情報第5号（9月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>県北部の極早生品種「コシヒカリ」の出穂期は平年より3日遅く、草丈は平年並み、茎数はやや少ない。成熟期は平年並と考えられる。</p> <p>県南部の出穂期は極早生品種の「キヌヒカリ」は平年並み、中生品種の「ヒノヒカリ」、晩生品種の「山田錦」は平年よりやや早くなる見込み。草丈は「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「山田錦」でやや短い。茎数は「キヌヒカリ」で平年より多く、「山田錦」で平年並み、「ヒノヒカリ」はやや少ない。成熟期はやや早まると考えられる。</p>	
		<p>2 栽培管理等</p> <p>落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取7日前を目安とする。</p> <p>適期収穫を行う。刈取時期の目安は、稔実もみの85%（山田錦は90%）が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。</p> <p>乾燥作業前は必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。外気温が高いときに乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがあるので注意する。</p> <p>強風のため、穂ずれが見られる圃場がある。強風時には脱水症状により白穂になる危険があるので、台風などの強風が予想される際には灌水に努める。</p>	
		<p>3 病虫害</p> <p>(1) 穂いもちは平年並みと予想される。今後の1か月予報によると、気温は高く、本病の発生を助長する要因は少ない。葉いもちの発生量も平年並みであり、今後も平年並みで推移すると予想される。</p> <p>(2) 紋枯病は平年並みの発生と予想される。気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、普通期においては注意が必要である。向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並又は多いと予想されており、ほ場によっては多発する場合もあると考えられる。</p>	<p>3 病虫害</p> <p>(1) ほ場及び周辺ほ場をよく見回り、発生状況を確認する。既に葉いもち病斑がある場合は、箱施用剤の薬効は切れているので、穂へ感染する可能性があり、注意が必要である。防除は、薬剤の種類と散布時期に注意する。</p> <p>(2) ほ場をよく見回り、適宜農薬散布を行う。また、多発ほ場では早めに秋すきを行い、越冬菌核の減少を図る。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲 続き	全 県 共 通	<p>(3) トビイロウンカは、8月中旬の現地調査では県下全域のほ場で発生を認めており（現地発生ほ場率77%）、発生量は多くなると予想される。既に発生が確認されているほ場においては、坪枯れなどの被害につながる可能性が高いので注意する。</p> <p>(4) 予察灯において、斑点米カメムシ類の誘殺が増え始めている。本田では平年並みに発生が確認されており、今後の1か月予報で、気温は高いと予想されていることから、発生はやや多いと予想される。</p>	<p>(3) 収穫期が10月以降になる作型（ヒノヒカリ・山田錦等）や無防除ほ場においては、坪枯れが生じる可能性がある。9月上旬における本虫の密度が要防除水準（成・幼虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を実施する。</p> <p>病害虫発生予察注意報第3号（トビイロウンカの防除対策について）  <a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou3.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou3.pdf</a>を参照し、適切な防除対策を実施する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期に行う。ヒエの穂やホタルイの小穂が発生源となるので、特にヒエやホタルイの発生ほ場は防除を徹底する。</p>
大豆	全 県 共 通	<p>1 生育 降雨が少ないため、開花期は平年よりやや遅れている。生育は土壤水分が不足気味のほ場ではやや遅れているが、土壤水分が適切なほ場では順調である。黒大豆は降雨の影響で中耕ができない圃場もあり、雑草が繁茂し、生育遅延が見られる。</p> <p>2 栽培管理 降雨による滞水がないように、ほ場の排水を良くする。一方、土壤が乾燥する場合は、走り水等により土壤水分を一定に保ち、莢伸長や子実肥大が順調に進むよう努める。</p> <p>3 病害虫 (1) 立枯性病害は、現地調査における発生はやや少ない。今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並み又は多く、日照時間は平年並みまたは少ないと予想されており、平年並みの発生が予想される。</p> <p>(2) 吸実性カメムシ類は、発生ほ場率が33.3%（平年は5.9%）と高かったが、密度は0.2頭/10株とやや少なかった。今後の1か月予報によると、気温は高く、発生はやや多いと予想される。</p> <p>(3) ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺は、やや多い傾向が続いている。大豆での発生は平年並みと予想されるが、8月下旬において白変葉の発生を確認しており、注意が必要である。</p>	<p>3 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。畝間かん水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等のほ場管理に努める。</p> <p>(2) 適期防除に努める。カメムシ類の防除適期は着莢初期～子実肥大期である。</p> <p>(3) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に、適切に散布する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 近年、ゲリラ豪雨や台風の発生が多く、降雨に伴う作業の遅れや畝立て時の碎土不良が懸念される。</p> <p>(2) 定植後に降雨がない場合は、苗の活着不良が懸念される。</p> <p>(3) 追肥作業が遅れないように注意する。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、加西市におけるクレオメ(誘致植物)の調査では、8月第4週の幼虫寄生シュート(花枝)率が96%(平年は28%)と高い状態が続いている。今後の気象は高温が予想され、増殖に好適であるため、今後栽培される野菜類(アブラナ科)では、被害の発生が予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウは、フェロモントラップへの誘殺がやや多い傾向が続いている。今後の気象条件は高温が予想され、増殖に好適であるため、今後栽培される野菜類では、やや多い発生になると考えられる。</p> <p>(3) フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数は、多発した前年、前々年と同程度で推移している。今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。生態的に今後密度増加期を迎えることから、やや多い発生が予想され、注意を要する。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) ほ場内外の排水性を良好に保ち、特に大雨が予想される場合には排水溝をさらえておく。また降雨による畝の崩れや落水口への連結不良に注意し、冠水時には早期の排水に努める。</p> <p>(2) 定植後は、かん水チューブ等で十分かん水し、苗の活着と初期生育を促す。土壤が乾燥している時の中耕は浅めに行う。</p> <p>(3) 条間の追肥は、葉が繁茂しないうちに計画的に早めの追肥に努める。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいので、不織布や寒冷紗などによりハイマダラノメイガの飛来を避けるとともに、定植前後に予防的防除を行う。詳しくは、病害虫発生予察注意報第2号(アブラナ科野菜を加害するハイマダラノメイガの発生状況と防除対策について)(<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou2.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou2.pdf</a>)を参考にすること。</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適切に使用する。</p> <p>(3) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には特に注意する。薬剤は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適切に散布する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策										
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 梅雨明け以降、ほとんど降雨がなく、高温、乾燥が続いている。各果樹の生育ステージに適した土壌水分を維持する。</p> <p>(2) 高温により成熟期が早まる可能性がある。また、果実の成熟は、樹種や品種、園地等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。</p>	<p>1 生育</p> <p>(1) かん水、敷きわらなどにより乾燥防止対策を行う。かん水の際は、こまめなかん水を心がけ、急激な土壌水分の変化がないように注意する。</p> <p>(2) 試食を行うと共に、カラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から収穫適期を判断する。</p>										
		<p>樹種別の生育状況（8月下旬時点）</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>クリ</td> <td>生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並。着量量は「丹沢」が平年並み、「銀寄」が多く、「筑波」がやや多い。果実肥大はやや劣る。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>成熟期はほぼ平年並で、果粒の肥大は良いが、着色はやや不良で、一部裂果がみられる。</td> </tr> <tr> <td>ナシ（青ナシ）</td> <td>成熟期は平年に比べ1～2日早く、前年に比べ2～3日遅い。果実肥大は平年並。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>果実の収穫開始は平年並である。梅雨時期の長雨により、収穫始めの果実は大玉傾向である。また果実の着色は良好である。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>表年傾向で着果の多い園が多く、生理落果は平年並みである。高温乾燥でハダニ類の発生が懸念される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市</p>		クリ	生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並。着量量は「丹沢」が平年並み、「銀寄」が多く、「筑波」がやや多い。果実肥大はやや劣る。	ブドウ	成熟期はほぼ平年並で、果粒の肥大は良いが、着色はやや不良で、一部裂果がみられる。	ナシ（青ナシ）	成熟期は平年に比べ1～2日早く、前年に比べ2～3日遅い。果実肥大は平年並。	イチジク	果実の収穫開始は平年並である。梅雨時期の長雨により、収穫始めの果実は大玉傾向である。また果実の着色は良好である。	温州ミカン	表年傾向で着果の多い園が多く、生理落果は平年並みである。高温乾燥でハダニ類の発生が懸念される。
		クリ	生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並。着量量は「丹沢」が平年並み、「銀寄」が多く、「筑波」がやや多い。果実肥大はやや劣る。										
ブドウ	成熟期はほぼ平年並で、果粒の肥大は良いが、着色はやや不良で、一部裂果がみられる。												
ナシ（青ナシ）	成熟期は平年に比べ1～2日早く、前年に比べ2～3日遅い。果実肥大は平年並。												
イチジク	果実の収穫開始は平年並である。梅雨時期の長雨により、収穫始めの果実は大玉傾向である。また果実の着色は良好である。												
温州ミカン	表年傾向で着果の多い園が多く、生理落果は平年並みである。高温乾燥でハダニ類の発生が懸念される。												
<p>2 台風対策</p> <p>台風シーズンに入るので、気象情報をチェックして、早めに台風に対する備えを行う。</p> <p>3 病害虫</p> <p>(1) 今後の降雨により、イチジクの腐敗果、疫病等病害の発生が懸念される。</p> <p>(2) 果樹カメムシ類の発生はやや多いと予想される。淡路地域ではミナミアカメムシの予察灯への誘殺数が多い傾向がみられる。</p>	<p>2 台風対策</p> <p>枝の結束や支柱を強化すると共に、防風ネットの補強に努める。</p> <p>収穫可能な果実はできる限り収穫しておく（農薬使用基準に留意）。</p> <p>雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝や排水口の点検をする。</p> <p>3 病害虫</p> <p>(1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。イチジクは腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ。前年の秋以降病害が多発した園では、果実や葉の観察を行い、必要に応じて臨機防除を行う。</p> <p>(2) 発生動向に注意し、適切な防除に努める。薬剤は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に、選定する。</p>												

◎水稲・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。  
 ※本情報は、8月28日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方 1か月予報 (8月29日～9月28日)

[令和2年8月27日 大阪管区气象台発表]

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

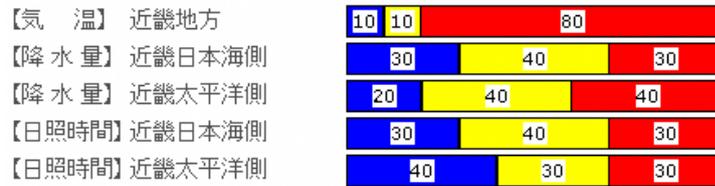
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わってでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

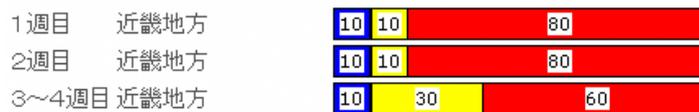
週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。3～4週目は、高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

(2) 近畿地方 3か月予報 (9月～11月)

[令和2年8月25日 大阪管区气象台発表]

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わりますが、近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率60%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

11月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

#### ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」  
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

#### 問い合わせ先

##### 本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)  
農産班:主作・機械担当 内線 4069  
農産班:野菜担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

##### 技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410  
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)